

美術館 中期経営目標

(実施期間 平成30年度～平成34年度)

平成30年3月 策定

1 施設の設置目的

本県らしい地方色豊かな美術館として県内の美術文化活動の中核的な役割を果たすとともに、県民の生涯学習の場となることを目的としています。

2 施設の果たすべき役割

本県にゆかりのある作家の作品並びに加賀藩主前田家に伝わる貴重な文化財や美術品を展示し、県民及び観光客に本県の優れた美術作品の鑑賞の場を提供しています。

また、それらを収集・修復・保管し、後世に伝えるとともに、調査研究や普及活動にも取り組み、本県の美術文化の振興に努めています。

3 事業内容

(1) 展示活動

① コレクション展示

美術館が所蔵する文化財や美術品を、年間10回程度の展示替えにより常設展示しています。

② 企画展示

特定のテーマを設定して年3回の「企画展示」を開催しています。

③ 貸施設

企画展示室を美術団体等に創作活動の成果発表等の場として提供しています。

この他、ホールを講演会やコンサート等の場として、また広坂別館を展示や講義、茶会等の場として各種団体等に提供しています。

(2) 普及活動

美術に対する関心を高めるため、企画展に併せた講演会の開催や美術講座、作品解説を行っています。その他、子どもを対象にしたワークショップや、県内の小中学校での学校出前講座も実施しています。

(3) 収集・保存活動

本県に関係のある作品を中心に収集・保存しているほか、文化財保存修復工房では、県指定文化財をはじめとする作品の修復を行い、その様子も公開しています。

(4)調査・研究活動

本県で育まれてきた美術文化及びゆかりのある作家に関すること等、美術についての総合的な調査・研究活動を行っています。

4 現状と課題

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・多くの県民や観光客に数々の優れた美術作品に親しんで頂くため、常設展については、月1回程度の展示替えのほか作家個人を特集する特別陳列、テーマを決めて作品を展示する特集展示などを行っており、また、企画展については、本県にゆかりのある作家や、本県の美術界に大きな影響のあった作家の作品を展示してきました。
- ・平成20年度のリニューアル以降、毎月第一月曜日のコレクション展の観覧料の無料化や、季節による開館時間の延長、ポスター・チラシ配布を始めとした広報活動のほか、他の兼六園周辺文化施設と連携し、共通利用券の設定や、学校・旅行会社への「共同セールス」などを行ってきました。その成果もあって、近年減少傾向にあった利用者数は平成26年度から増加傾向にあります。より多くの方、特に北陸新幹線を利用する首都圏の方に利用していただくため、展示内容の魅力向上や利用促進策の強化などに取り組む必要があります。
- ・本県を訪れる外国人が増加する中、英語の展示案内を作成し、宿泊施設などに配布するとともに、館内においては音声ガイドシステムによる英語の解説などを行ってきたところであり、平成28年度は約1,500人の外国人の利用者がありました。より多くの外国人に来館いただけるよう、広報活動の強化や受入体制の充実を図る必要があります。
- ・子供の頃から美術に興味を持ってもらうため、学校と連携を図り、「学校出前講座」などを行っていますが、多くの児童・生徒に足を運んでもらえるよう、取り組みを強化していく必要があります。
- ・前田育徳会尊經閣文庫分館においては、前田育徳会が所蔵する加賀藩主前田家が収集した国宝22点、重要文化財76点を含む優れた図書・古文書の一部を公開しており、特別陳列や「加賀百万石の文化講座」などの活動に努めていますが、多くの方に鑑賞していただけるよう、今後ともこうした活動を強化していく必要があります。
- ・展示作品に理解を深めてもらう一助として、団体利用者への作品解説のほか、学芸員が年間を通したテーマに沿って美術作品を詳しく紹介する「美術講座」の開催、作品を前にして対話型の作品解説を行うギャラリートークなどを行っていますが、これまで以上に利用者に満足いただけるよう、これらの取り組みの充実や継続に努めていきます。

(2) 施設運営の効率化について

・これまでも、清掃業務については、隣接する歴史博物館、能楽堂を加えた一括入札の実施（平成19年度）や受付・看視職員の直接雇用から民間委託への切り替え（平成20年度）など工夫をしてきたところであり、今後とも、経費の節減・効率化に努めていくこととしています。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標

- ① 利用者数を5年間で5%増加させます。
- ② 利用者アンケートによる満足度を95%以上に引き上げ維持します。
- ③ 利用者1人あたりの一般財源投入額を5年間で5%削減します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標	H28実績値 (H26～28の平均)	中間目標値 (H32)	最終目標値 (H34)
① 利用者数	449,730人	461,000人	472,500人
② 利用者アンケートによる満足度	94%	95%以上	95%以上
③ 利用者一人あたりの一般財源投入額	345円	335円	328円

6 目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

- ・より多くの方に美術に関心を持って頂くため、本県ゆかりの美術作品を中心に、今まで取り上げていない若手作家等幅広い内容で特集展示を組むほか、アンケート調査等を行い来館者のニーズを反映した作品展示を行います。
- ・他の兼六園周辺文化施設と連携し、共同セールスを年1回から年2回に増やすほか、引き続き、共通利用券のPRやマップの配布を行うなど広報活動を強化します。
- ・外国人の利用促進を図るため、館内に英語の展示内容の表示を設置するなど受け入れ体制を整えるほか、引き続き、英語の展示案内の配布などの取り組みを行います。
- ・学校出前講座については、小中学生により美術に興味を持ってもらえるよう、単に作品を鑑賞する機会を提供するだけでなく、学芸員の仕事を小中学生に紹介するなど内容の充実を図ります。また、まだ訪問したことのない地域での開催にも努めます。
- ・前田育徳会尊経閣文庫分館については、前田育徳会が所蔵する素晴らしい美術品を鑑賞する機会を提供するため、引き続き、特別陳列や「加賀百万石の文化講座」などを開催します。

- ・利用者に美術作品についての理解を深めて頂くため、展示室前のモニターを活用した映像による展示・展覧会紹介の充実や、ギャラリートークの回数を増やします。また、引き続き、「美術講座」については展覧会に関連したテーマで行うなど来館者の展示への興味を促すような工夫に努めます。
- ・利用者により満足して頂くため、引き続きアンケートを実施し、利用者ニーズの把握に努め、サービス向上に努めていきます。

(2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・民間委託業務の点検、見直しを行うなど、今後とも引き続き経費の節減・効率化に努めます。

(3) 東京オリンピックと北陸工芸サミットに向けた取り組み

- ・2020年に東京オリンピックが開催されることから、これを契機とした文化プログラムを充実させ、本県の特徴ある工芸や伝統文化を国内外のお客様に知っていただく展覧会を開催します。
- ・また、2020年に石川で北陸工芸サミットが開催されることから、当館で工芸に特化した展覧会を富山、福井と連携して開催します。

参考資料

1 施設の利用状況

(1) 利用指標(利用人数、稼働率などの状況)

項目	H26	H27	H28
利用者数	433,394人	448,456人	467,339人
美術館利用者数	409,127人	448,456人	434,451人
別館利用者数	24,267人	0人	32,888人
普及活動参加者数	7,533人	7,166人	8,317人
講演会	1,152人	1,109人	1,105人
美術講座	921人	695人	740人
学校出前講座	1,989人	1,418人	1,738人
キッズプログラム	205人	209人	313人
その他(ギャラリートーク等)	3,266人	3,735人	4,421人

※別館は、27年度リニューアルのため休館

(2) 利用者アンケート指標(利用者サービス、施設の維持管理) (単位:%)

項目	H26	H27	H28
良い	51	59	65
概ね良い	43	35	29
計	94	94	94
やや悪い	5	4	4
悪い	1	2	2

(3) 使用許可等の状況

項目	H26	H27	H28
企画展示室	24件	24件	27件
ホール	46件	48件	39件
別館	657件	0件	114件
計	727件	72件	180件

※別館は、27年度リニューアルのため休館、28年度の減はリニューアル後別館ホールが取り壊され、多目的室と和室のみの使用となったため。

(4) 使用料の収入実績

項目	H26	H27	H28
観覧料	13,953 千円	33,340 千円	18,943 千円
施設使用料	24,834 千円	21,578 千円	25,157 千円
特別観覧料	523 千円	492 千円	216 千円
計	39,310 千円	55,410 千円	44,316 千円

(5) 収支の状況

(単位:千円)

		H26決算	H27決算	H28決算
歳出	職員費	122,687	119,739	125,291
	運営費	158,747	155,604	166,497
	展覧会費	23,019	58,369	26,100
	教育普及費	5,834	5,252	5,850
	美術品購入費	11,880	32,400	27,000
	文化財保存修復工房運営費	1,296	1,118	7,201
	その他	4,503	15,150	5,472
	計	327,966	387,632	363,411
歳入	観覧料	14,476	33,832	19,159
	施設使用料	24,834	21,578	25,157
	図録売払収入	2,091	9,206	1,873
	グッズ販売収入	624	1,322	643
	基金、国庫等助成金	1,900		2,478
	その他	17,530	38,569	33,760
	一般財源	269,511	283,125	280,341
	計	327,966	387,632	363,411

3 利用者1人あたりの一般財源投入額

	H26	H27	H28
一般財源投入額 ①	269,511 千円	283,125 円	280,341 千円
職員費を除いた額 ①'	146,824 千円	163,386 千円	155,050 千円
利用者数 ②	433,394 人	448,456 人	467,339 人
利用者1人あたりの一般財源投入額 ①÷②	622 円	631 円	600 円
職員費を除いた額 ①' ÷ ②	339 円	364 円	332 円